

# 宇部興産株式会社 様

SAP 基幹システムの中核を担うプラットフォームとして二世代にわたり基幹 IA サーバ「PRIMEQUEST」を採用  
予備ボードの搭載で高可用システムをシンプルに実現

化学分野を中心にグローバル市場で発展を続ける宇部興産。2007年にSAP基幹システムのベースとなるOSをUNIXからWindowsへマイグレーションするため、富士通の基幹IAサーバ「PRIMEQUEST」をプラットフォームに採用しました。障害発生時のサーバ切替処理をソフトウェア制御で行うクラスタ構成から、ハードウェア制御による予備ボード切替のシンプルな構成に変えたことで、運用の効率化やTCO削減を実現しました。また、リソースを柔軟に変更することにより、SAP R/3のバージョンアップ作業時間も大幅に短縮。「PRIMEQUEST」の高信頼、高可用を実感したことで、2011年のリプレース時も「PRIMEQUEST」の最新モデルを選択。従来の高信頼、高可用に加え、大幅な性能向上によりバッチ処理時間の短縮も実現しています。

## 導入事例概要

- 業種  
製造業
- ハードウェア  
基幹IAサーバ PRIMEQUEST 1800E2、1400S2
- ソフトウェア  
SAP ERP  
Microsoft SQL Server

## 課題と効果

- SAP基幹システムをWindowsにマイグレーションし、運用を効率化したい  
 2007年、新プラットフォームに「PRIMEQUEST」を採用し、既存16台のサーバを2台に統合。2011年、独自の高信頼、高可用技術と安定稼働の実績を評価し、最新モデルに刷新
- ソフトウェア制御によるクラスタ構成システムの運用管理作業を軽減したい  
 「PRIMEQUEST」に予備ボードを搭載することでハードウェア制御による高可用性を実現。構成のシンプル化と運用の簡素化により初期導入コストの抑制、運用コストの削減を実現
- データ量が増大するSAP R/3システムにおいてバージョンアップ時間の短縮化を図りたい  
 「PRIMEQUEST」のフレキシブルI/Oを活用し、CPUやメモリなどのリソースを柔軟に変更することにより、SAP R/3のバージョンアップ作業時間を1/3以下に短縮

## 導入の背景

### ITインフラの転換点は2006年のIT標準化指針の策定

「技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。」広告でもおなじみのキャッチフレーズをもつ宇部興産は、独創的な技術や製品によって医薬品など身近なものから社会インフラ、航空宇宙まで、さまざまな分野で新たな価値の創造を続け、社会の発展に貢献しています。

創業100年以上にわたり「共存同栄」の創業理念のもと、世界を舞台に幅広い製品の事業を展開する同社は、国内外に145社のグループ



経営管理室  
情報システム部長  
友景 浩氏

会社を有し、グループの連携強化やグループ全体の効率化を図るためにITの活用にも積極的です。

「当社の情報システム部門は、連結ベースでの経営システム全般の高度化、情報セキュリ

ティの向上、環境負荷の軽減など、ITサーバを活用することで当社とグループ会社の企業価値向上に貢献することを基本方針に掲げています。近年、ITインフラで大きな転換点となったのは2006年のIT標準化指針の策定です」と宇部興産 経営管理室 情報システム部長 友景浩氏は語ります。

## 導入のポイント

### 効果の実感と実績に基づく信頼感から「PRIMEQUEST」を再び選択

IT標準化指針では、IT技術者の高度化、育成効率化の観点から、OSはWindows、データベースはMicrosoft SQL Serverを標準とすることを定めています。この指針のもと、各ITシステムの標準化を開始していますが、2007年にはUNIXサーバで稼働していたSAP基幹システムについてもWindowsへのマイグレーション実施を決定しました。会計、販売、購買、生産などを担い、UNIXサーバ並みの高い信頼性が求められるSAP基幹システムのプ

ラットフォームとして適したサーバは何か。「SAP基幹システムにも適用可能な富士通の基幹IAサーバPRIMEQUESTが最適でした」と友景氏は振り返ります。

同部 情報・インフラグループ グループリーダー 大井和之氏は「PRIMEQUEST」の信頼性について「当社は富士通のメインフレームを長年使用してきた経験があり、信頼性についても十分な実績がありました。このメインフレームの技術を活用して設計されたPRIMEQUESTの高い信頼性とハードウェアの柔軟な拡張性には大きな期待を寄せていました」と話します。

そして、今回のリプレースにおいて、改めてSAP基幹システムに適したサーバの観点から複数社の製品で慎重に検討を重ねた結果、実績に基づく高信頼性に加え、独自技術の優位性、将来性から「PRIMEQUEST」の



経営管理室  
情報システム部  
情報・インフラグループ  
グループリーダー  
大井 和之氏



宇部情報システム  
情報処理サービス部  
運用技術グループ  
ITコンサルタント  
**蔵重 誠氏**

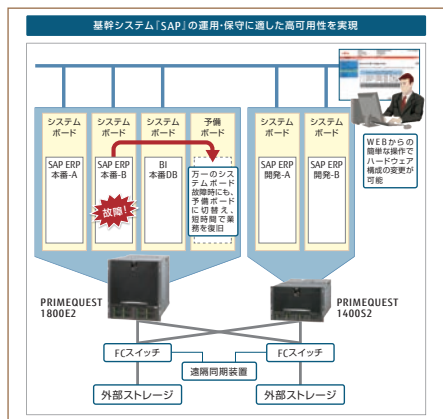
最新モデルの採用に至りました。

まず運用性の面で予備ボードを活用した高可用性が高い評価を得ました。「UNIX サーバを利用していただけ、ソフトウェア制御によるクラスタ構成にしていましたが、構築や検証作業に手間がかかることに加え、仕組みが複雑で維持管理が大変煩雑でした。PRIMEQUEST は予備ボードを搭載し、簡単な設定をするだけ。アプリケーションに依存しないため早期復旧が可能です。シンプルな構成と運用により業務の効率化や TCO の削減が図れることが今回の採用でも大きなポイントとなりました」と、UBE グループの運用管理・企画を担当する宇部情報システム 情報処理サービス部 運用技術グループ IT コンサルタント 蔵重誠氏は話します。

### システムの概要

## 「PRIMEQUEST」ならではのリソースの柔軟な変更も重視したポイント

運用管理・企画を担当する蔵重氏が「PRIMEQUEST」ならではの長所として重視したポイントが、リソース変更への柔軟な対応です。従来のシステムでは、SAP R/3 のバージョン



アップ作業時に、作業時間の短縮の為に CPU やメモリ等のリソース追加が必要になる事がありました。その際は追加機器の購入手続きやカスタマーエンジニア (CE) の作業手配など、費用と時間がかかることが課題でした。「PRIMEQUEST は、追加費用やカスタマーエンジニアを必要とせず、Web からの簡単な操作で CPU やメモリ、I/O などの変更ができます。大量データを処理するときには他のシステムからリソースを借りて短時間で処理させることも可能です。2007 年の導入後、2012 年に行った SAP R/3 から ERP へのバージョンアップで非常に高い効果を発揮しました」(蔵重氏)。

今回の採用では性能面も大きなポイントとなりました。「膨大な数のジョブが同時に動いているので、多重処理が行えるように高性能な CPU を求めていました。当時、当社の要件を満たしていたのは 10 コアの CPU を搭載可能な PRIMEQUEST 1800E2 と 1400S2 だけでした」(蔵重氏)。

導入時には周辺機器との連携も必要です。「PRIMEQUEST は既設の他社製ストレージとの接続保証の認定も早い。この点も重要です。ストレージとの接続保証がないと SAP 基幹システムのサーバとして採用することができません」(大井氏)。

同社は SAP ERP のグループ会社の共同利用も図っており、今回、新 SAP 基幹システムでは、宇部興産の SAP ERP (10 社以上で共同利用)、グループ会社宇部興産機械の SAP ERP、BI (Business Intelligence) システムのデータベース、予備ボードの 4 パーティション構成となっています。

新システムは 2011 年 10 月に導入。宇部興産が 2012 年 5 月、宇部興産機械が同年 8 月に本稼働し、現在まで大きなトラブルはなく安定稼働を続けています。

### 導入効果と今後の展望

## 性能向上によりバッチ処理の平均応答時間を 1/4 に短縮

前回、UNIX サーバから「PRIMEQUEST」にプラットフォームを刷新した際には、16 台のサー

バを 2 台に集約でき、省スペース化や運用業務の効率化など TCO の削減が図れました。また、CPU やメモリなどのリソースを柔軟に変更することで、課題となっていたバージョンアップ作業の時間が大幅に短縮しました。

今回の導入では「PRIMEQUEST 1800E2」にリプレースしたことで性能が向上し、バッチ処理の平均処理時間を 1/4 に短縮するとともに、トランザクション処理も平均処理時間を 1/2 に短縮。増大するデータ量に対しバッチ処理、オンライン処理ともに余裕をもった対応が可能となりました。また、今回も SAP R/3 のバージョンアップがありましたが、検証で 72 時間想定していたバージョンアップ作業が 20 時間で完了できるなどさらなる時間短縮が図れました。

今後の展開について「次は仮想化もキーワードになると考えています。またグループ会社に対して SAP ERP の UBE テンプレートの展開や SAP を活用した経理事務のシェアードサービスの拡大を推進していきます。海外の生産システムとの連携も検討しており、富士通には安定稼働を維持するべくサポートの一層の強化をお願いいたします」と友景氏は語ります。

フロンティアスピリットを胸に、社会や地球環境との共生に貢献する宇部興産。世界を舞台に活躍する同社の取り組みを、富士通は先進の IT 技術と総合力で支援していきます。

### 概要



### 宇部興産株式会社

設立	1942 年 3 月 (創業 1897 年 6 月)
東京本社	東京都港区芝浦 1-2-1 シーバンス N 館
宇部本社	山口県宇部市大字小串 1978-96
従業員数	連結 11,081 名 (2012 年 3 月現在) 単独 3,773 名 (2012 年 3 月現在)
資本金	584 億円 (2012 年 3 月末現在)
事業概要	化成系・樹脂、機能品・ファイン、医薬、建設資材、機械・金属成形、エネルギー・環境の 6 事業を展開
ホームページ	<a href="http://www.ube.co.jp/">http://www.ube.co.jp/</a>

●本カタログ記載の会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。  
●記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

### お問い合わせ先

富士通コンタクトライン **0120-933-200**

受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター